

令和元年度 維孝館学園クリエイト会議 第3回通学部会まとめ

1. 日 時 令和元年12月6日 19時30分～21時30分

2. 場 所 宇治田原町住民体育館 会議室

3. 出席者 田川部会長 外 委員10名 事務局3名 計14名

4. 内容等

①第1回、第2回の会議内容について確認を行った。

小学校通学距離の基準圏内（文部科学省）は4kmまで。

現在の小学校、一貫校開設後の各々の距離イメージについて、直径2km、1.6kmの円（図面）にて確認した。

現在の通学距離（徒歩）と一貫校の通学距離イメージを確認。地区公民館を起点にシミュレーションを行った。

その上で、1.6km円内を徒歩通学の範囲とすること、それを超えるエリアにおいては徒歩、バス両方の通学方法で検討していくことを共有した。

②バス通学の考え方について事務局より説明

☆対象地域

2kmを超える地区 銘城台（東城台）、緑苑坂、湯屋谷、奥山田

1.6kmから2kmまでの地区

南の一部 老中、符作、名村自治会のエリア

岩山の一部 隠谷のエリア

※禅定寺はバス以外の方法を検討

☆運行形態・車両

京都京阪バスの路線バスを活用する。時間帯、ルート等により臨時便を増便する。

対象児童に定期券等を発行する。乗降時の安全等を考慮し、バス運行は左回りを基本とする。

※奥山田、（湯屋谷）はコミュニティバスを引き続き運行する。

③意見交流

・南区について、2km円を超えてくる一の宮神社からさらに和束町よりに数年前には児童が存在したが現在、開校時にはいないのか。

⇒現在の住民基本台帳で整理すると存在しない。

・路線バスの定員はどれくらいを見込んでいるのか。

⇒バス会社にも確認をしたが、70人程度である。ただ正味のところ大人だと60人くらいが目一杯ということだった。児童の定員としては52人で想定している。構造上も全員が座れるわけではないが、バス通学の中で下級生には席を譲るなど助け合いの心や公衆道徳も学んでもらいたい。

- ・南区のバス停留所の想定は集落の南側を予定しているようだが、バス対象児童の中には国道側へ出た方が早い子どもでてくるように思う。集団登校の行きは大丈夫かと思うが、帰りは臨時便ではなくて通常路線便で帰ろうとする子が出てこないか。

⇒臨時便、通常便共通の定期券を発行する予定で考えており、居住する位置によってそういった考えを持つ方も出てくるとは思う。ただ、バス通学を導入することになれば一定の条件は守ってもらわないと困るし、学校現場でも徹底した指導をしてもらうことになる。

1. 6km円の境界付近で微妙な方も出てくるだろうが、ピンポイントの議論ではなく全体的な俯瞰のもと地域単位くらいで条件を構築していかないと、見守り体制などにも影響が出てくる。

- ・基本的にエリア指定をすることは致し方ないが、それほど距離が違わない地域間で雨の時にバスに乗れる、乗れないとかで不公平感が出てくるように思う。中学生のバス通学は見込んでいるのか。奥山田は自転車では無理だろう。

⇒奥山田はコミュニティバスを継続して利用してもらい中学生も利用対象に見込んでいる。奥山田以外の生徒はバス対象外であるが、この際リセットして徒歩、自転車の選択制にしてもよいのではと考えている。

- ・禅定寺のニチダイや工業団地の通勤車には企業の管理組合等でそれなりの指導がされているようだがまだまだ弱い部分が否めない。先日視察した2校でもあったが、どこかの段階で学校や地域を巻き込んだ協議会などに管理組合の方に参画してもらい、通学を町全体の問題として共有して行ける場の設定であるとか、企業所有のマイクロバスを臨時便の対象として協力を求めるなども考えてみてはどうか。

- ・工業団地管理組合と隣接自治区との会合の場が年1回は必ずある。管理組合において色々と工夫はしてもらっているが、あれだけの人数がいると徹底してもらうことはかなり難しい。警察も含めた行政指導が重要。マイクロバスの協力も数社で委託しているところが多く自前のバスを持っている企業も少ないと思うので通学の協力を得るのは厳しいのではないかと。

⇒交通安全で一番効果的なのは一方通行等の規制であるが、過去にも地元間の事情などそれぞれあり話がなかなかまとまらなかった。通学の問題で特に従業員の多い企業を中心に行政側から働きかけて協力を求めていくことは必要な課題としてとらえている。

- ・山手線の整備が思うように進んでいないことがあるが、一貫校の開校と通学の安全を絡めて建設促進の材料として利用することを考えてもよいのでは。

⇒新庁舎までは令和3年度末までの完成で動いている。新庁舎から工業団地までは具体的な予定を言える段階にはない。府や国への要望など様々なレベルで取り組みは行っているが、事業化までは至っていないのが実情である。

- ・山手線が新庁舎まで延び、そこから南北線と繋がったら307号と合流する時に右折車

が出てくると思うが信号はつくのか。

⇒工業団地へ向かう車が国道まで行かず一本手前を右折することも考えられる。開通の時期に合わせた車の流れを予測するなかで対応を考えていく必要がある。今の段階で公安委員会等に掛け合うことはしていない。

- ・子どもが公共の乗り物に乗って学校に通うということに免疫がなかったのが驚いている。先日視察にいった亀岡川東学園も路線バスを利用しているとのことだったが人数が少ないようだった。宇治田原では人数も多くいて、全員が座れるわけではないということで、色んな保護者の方がいるし不安に感じる方も出てくるようには思う。公共の乗り物に乗ることで学べることもあるだろうから、お母さんたちが練習するなりそれに合わせていけばいいのではとも思う。

⇒通勤、帰宅ラッシュと重ならない時間の路線バスはほとんど乗客がいない。一般客の影響で児童がバスに乗れなくなるということは人数的には考えにくい。座席ということでは朝の一斉登校時には言っていられないが、下校時に座席を優先するなら十数分待ってもらったら次の便に乗ってもらうこともできる。

- ・緑苑坂の児童は、臨時便、通常便と別れて乗ることができるが、割振りはされているのか、自由なのか。自由であるなら（朝の仕度がゆっくりできる）遅い便で来たがるように思う。

⇒今は人数をどうクリアするかといったシミュレーションしか行っていない。ただフレキシブルにすれば返って子どもが混乱するとも考えられ、どの班がどの便でくるかというような決め事は整えて行く必要があると考えている。

- ・バスの乗り方でいうと停留所までは個人で行くよりも、通学班で移動する方がその中に高学年の子もいて、誰が来ていて誰が来ていない（休みである）とかをチェックして、バス停で待っている保護者などに伝えることで注意できるのでいいと思う。

⇒バス通学の児童も停留所まで歩いていけることは本人にとっても大切なこと。個人で行くのか通学班の形を残していくのか、バス停までの行き方については保護者の方も心配されると思うので、今後整理が必要な課題として考えている。

- ・通学班の形で停留所まで行くことはいいと思う。加えて時間を守るということも子どもとはいえ学んでもらう必要があると思う。切符を買う必要がなくなったりと公共交通に乗るハードルも下がっているので大人になる準備、社会性を学んでもらう意味でも必要なことと思う。

- ・通学班のこととかを考えると地域委員の負担が大きいという懸念がある。通学班会で誰を班長にするとか班割について決めたりするので、この辺の人達を巻き込んだかたちで今後も進めていかないといけないと思った。この会議よりもっと具体的なことを聞かれると思うので、バス対象のエリアの考え方とかもよりクリアにしていくことが安心してもらうためにも必要かと思った。

⇒開校時までには子供の分布も変わってくるので、大筋の話は今の地域委員さんにも伝えることとして、事細かな話はまだこれから時間をかけてということになると考えている。

- ・南地区では学校側ではなく（反対方向の）山手線へ向かって歩く児童が半数以上になってくるので方針がきまったら早めに知らせていくことが必要だと思う。

- ・視察に行った学校のことだが、昼休みに下校便の連絡で先生達を集めるような放送が入っていたが、バスを導入すると子どもだけでなく大人の手間も増えてくると感じた。
- ・町営バスの利用促進の関係で小さいお子さんのお母さん方と話す機会があり、定時定路線のバスなので小さい頃から時間を守ることの大切さを教えることができるメリットがあるということをバスに乗ってみることで気付いたという意見もいただいた。
- ・中学校の通学方法の見直しということでは先を見越して慎重にする必要があると感じる。歩いてみて、自転車に乗ってみてこそ分るという事がそれぞれたくさんある。
- ・バス通学が始まると常に時計への意識付けが必要になってくるのだろうと思った。今の通学班を維持しながらバスを利用するという話もあったが、具体的な話を進めていくにあたり現場で働いている者の意見等も出させてもらえればと思う。
- ・今、バス会社の運転手がだいぶ減ってきており、終バスの前倒しがあったりしているが、バス通学で運転手の確保とか確約とかはできているのか。

⇒バス会社の方とも話をしており、将来のことなので確約はできないけども、バス通学に関して協力させていただきたいと言ってもらっている。

- ・通学に関する今後整理すべき事項をあげていただいているが、学校や保護者だけでなく自治会長だとか各種団体の長に入っただいて、地域全体で子どもを支援していくという意識付けができる組織を早い段階から行政主導で作りに上げて欲しい。今の小学校4年生以上くらいの保護者は自分達には関係ないことという意識になってきているように思う。

⇒今言っていたことは次の段階で、年次でいうと来年度以降で考えている。クリエイト会議にて小中一貫、施設一体型でやってはどうかと検討を重ねている。決定となった段階で提案いただいているような方向で進めて行く必要があると認識している。

- ・今年度のゴールはどこなのか、次年度は？といったタイムスケジュールを示してもらわないと今考えなくてもいいことを考えたり不安になったりすることになる。年次毎のある程度のタイムスケジュールを示して欲しいと考える。

⇒今年のクリエイト会議については、それぞれの課題について議論をしていただいております、来年3月がひとまずのゴール。これで終わりではなく、次のステップに行くについても3つの部会が並行して動いて行く必要がある。今年度最後のクリエイト会議では次年度以降のスケジュールを示していかないといけないと考えている。

- ・今年度やっていることは今後のたたき台的な意味合いがあると思うが、スケジュール的に短い感は否めない。川東学園ではもう少し時間をかけておられた。

⇒タイトな日程で動いていることは否定しない。子どもの数や施設の老朽化のことで今決めないといけない時期に来ているのは事実。まだ両小学校ともそれなりの人数がいるので、子どもの数が目に見えて減ってきたという状況にならないと地域の方々には認識してもらいにくいことは奥山田小学校の事例でも言える。行政主導みたいな形でご批判いただいている部分もあるが、考え方をお示しする中で協力をいただきたいというのが今回の話の根幹にある。

- ・学び教室や学童保育は従来どおり親御さんのお迎えという事でかわりないのか。

⇒そのように考えている。

- ・学び教室や学童は一貫校後の見通しとしては学園一箇所ですということでのよいのか。  
⇒学童施設は分かれてしまうかも知れないが学びサロンなどは一箇所ですることになる。  
学童をわける場合でも選択制にする必要はあると思っている。宇小校区の方でも兄弟を保育所に迎えに行く必要がある方は田原学童を選択されるといったことが出てくると思う。
- ・視察先は学童施設が学校の中に1つだけあった、田原学童はなしにする考え方はないのか。  
⇒基本は、学校のどこにあるべきだと思うが、田原学童はこれまでの経過もあるので残しておかないといけないと考えている。
- ・補助金のこととかの関係か。  
⇒地域の方々のお考えで残すことになる。
- ・地域の考えがどういったものかわからないが、子どもファーストで考えれば田原へ移動することが本当にそうなのか。そういったこともあるので地域の方を巻き込んだ協議を早くやらないと、行政が田原学童を利用することを先に決めてしまえば、我々には決定権はないが部会の意味がなくなってしまうように思う。  
⇒それぞれに学校に対する思い入れがあって、もともと保育所にあったところを移設にせずずっと使えるようにしてくれというのが地域の意見。子どもの移動のことはあるが、今のところは地域の思いを汲み取り残すかたちで協議を進めていきたいと考えている。
- ・バス通学に関する留意事項などの整理や今後のスケジュールはどういったものを描いているか。  
⇒見守り体制等の留意事項については今年度の専門部会では答えが出ない課題として考えている。次年度以降、部会を継続するなかで検討して行きたい。その前段階で、今回協議をしてきた内容を保護者の方にお示しするなかで色んな反響が出てくると考えている。出てきた内容や留意すべき検討事項も踏まえて次年度にまたこの場でご検討をいただくことになると考えている。

#### ④次回に向けて

次回専門部会は、2月下旬か3月上旬に3つの専門部会を同日に行い、その後全体会で各部会のまとめを発表し共有していただくような予定を考えている。